

コロナ支援・確定申告  
何でも相談窓口

0120-22-0000 (平日午前10時  
～午後4時)  
京商連事務局が対応し、各民商に相談をつなぎます

# 京商連News

(部内資料)

発行 京都府商工団体連合会

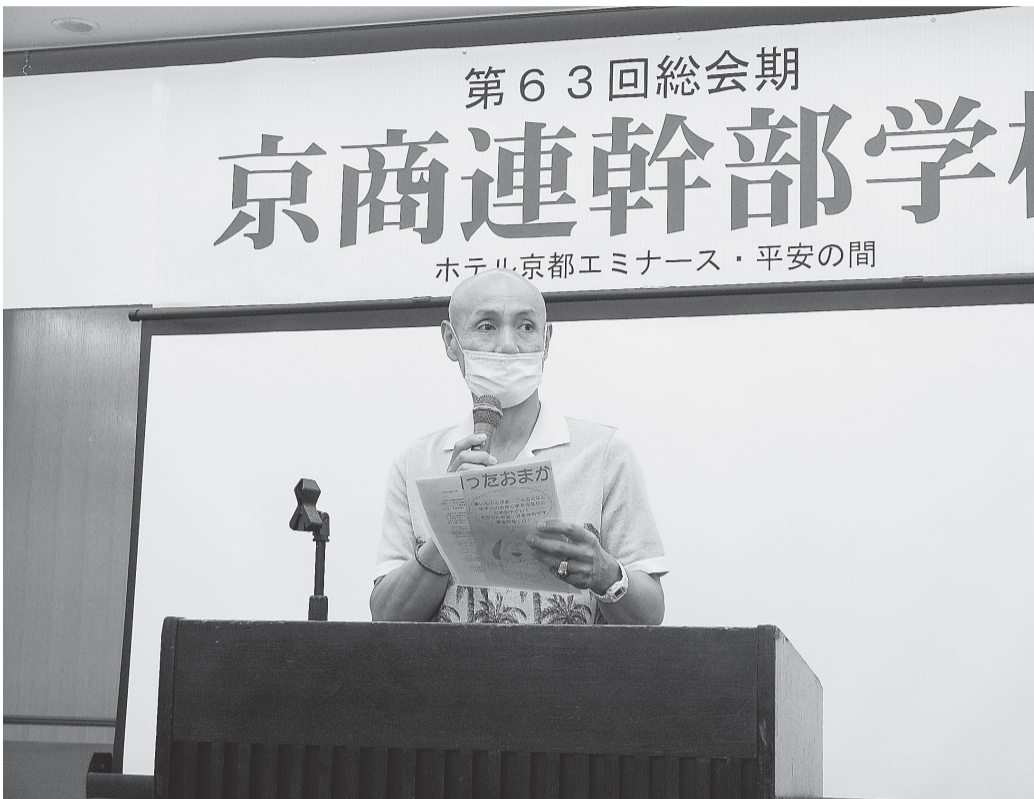
〒600-8009 京都市下京区四條通室町東入  
函谷鉾町78番地  
京都経済センター4階409

電話 075(353)3551 FAX 075(353)3552  
http://www.kyoshoren.gr.jp/  
E-mail: info@kyoshoren.gr.jp

1部10円(購読料は民商会費に含まれています)

4年ぶりに  
1泊2日で  
幹部学校を開催

## 「民商を大きくしたい」 との思いが交流される



商売・人生・民商を語る数内大観さん

京商連は8月3日と4日の2日間、京都・洛西のホテル京都エミナースを会場に、幹部学校を開催しました。1日目の参加も含め57人が参加しました。1泊2日での開催は4年ぶり。昼間の講義や分散会だけでなく、夜の宴会やその後の自主的分散会ではお酒も酌み交わし、民商のこと・商売のことなど語り合い、交流を深めました。

### 3つの講義を学ぶ

「今、民商に寄せられる要求相談は多岐にわたっています。そうした要求や相談の実現、解決に学習は切り離せません。民商運動の先頭に立っていただく幹部の皆さんの学習、交流の機会になれば」と京商連学習教育部長の内田公昭さん(食堂)の開会あいさつ(メッセージの代読)で、幹部学校は開校。1日目は3つの講義が行われました。第1講義は、DVD

「ようこそ民商へ」を視聴した後、全商連総会に出席した3人の代議員から、総会方針や分散会討議の様子が報告され、全国の民商の活動に触れました。続いて京商連副会長の松家幸治さん(家電販売)が、「民商・全商連運動の基本方向」について講義を行いました。

### 「商売・人生・民商を語る」

第二講義は、北民商会長の数内大観さん(建築)が「商売・人生・民商を語る」と題して、講演を行いました。数内さんはお父さんの代からの民商会員であり、幼い頃から民商に親しみがありました。民商にはどんなことでも相談出来、信頼を置いているといういま

す。講演では、生い立ちやお父さんの下で働いていた時の苦労やお父さんとの確執、これまでの人生の様々なエピソードを赤裸々に話し、とても人間味の溢れる「商売・人生・民商を語る」になりました。

翌日の分散会では、数内さんの講演についても「有効期限が入っているのは正解。忘れた頃に持ってこられたら、金

額が合わない」といった意見も出されていました。また、「数内さんの波乱の人生において、民商というコミュニティがあったことが数内さんの人生に大きな影響があったと感じました」との感想も出されていました。

### 少人数分散会で活発に議論

#### — 民商を大きく、そして経営交流

2日目は午前中、6つに分かれて分散会を行いました。長久さんの講義を受けて、分散会の人数を5〜6人にして、約2時間にわたり前日の講義の内容を深める討議を行いました。少人数という事もあり、普段の分散会よりも活発な討議となりました。

「うちも会員減だが、『減った分だけ増やす』活動をしている。若い会員獲得に向け、この2年間10人ずつ増やしている」との経験も語られました。

「チラシ2万部を新聞折込みし、『なんでも相談会』をしている。南山城村で1人入会があり、ようやく8つの市町村全てで会員ができた」とのうれしい報告もありました。また「郵便料金は10月1日から値上げ。しかし第3種郵便でビラを商

工新聞と一緒に送る場合は、10月1日以降も同じ42円でいける」との工夫も紹介されました。また分散会では、物価

「会員の減少が大変。このままだと会費を値上げしないと事務局の給与が払えない」と現状が報告されました。「この前総会があったが、財政のひっばくを目の当たりにし、会員を増やすことが

「ある居酒屋の会員は、満席の時に次回割引できる『ごめんなさいチケット』を渡している」と、お客をつなぎとめる工夫が紹介されました。建築業界の若手不足の問題では、「大手ゼネコ

「個人事業のクリーニングは減っている。洗濯に出さなくて良い服が多い。服を買っても使い捨ての感覚だから、クリーニング業界も厳しい。業者同士の助け合いが民商。交流の中でアイデアが出てくる」と、民商の魅力も語られています。

「ある居酒屋の会員は、満席の時に次回割引できる『ごめんなさいチケット』を渡している」と、お客をつなぎとめる工夫が紹介されました。建築業界の若手不足の問題では、「大手ゼネコ



第1分散会の様子



第5分散会の様子



第4分散会の様子